

県民ニーズ調査結果について

1 県民ニーズ調査について

○県民の意識・価値観などの変化や、多様化する生活ニーズを的確に把握し、その結果を施策に反映するため、毎年度実施している。

○県民ニーズ調査には、「基本調査」と「課題調査」がある。

基本調査・・・県民の生活や県政についての意識を継続的に調査

課題調査・・・時宜に応じたテーマについて調査

令和3年度第1回課題調査において、「男女共同参画社会」について5つの設問により調査を行った。設問は、いずれも「かながわ男女共同参画推進プラン（第4次）」を策定する際に実施した平成28年度県民ニーズ調査（課題調査）から引き続きとし、経年変化の状況も確認した。

調査地域：神奈川県全域

調査対象：県内在住の満18歳以上の方3,000人

抽出方法：住民基本台帳からの層化二段無作為抽出

調査方法：(1)郵送による調査票の配布 (2)郵送回答とインターネット回答の併用

調査期間：令和3年9月10日(金曜日)～10月4日(月曜日)

有効回収数：1,577件(郵送回答:1,006件、インターネット回答:571件)

性別内訳：男性682件、女性794件、無回答101件

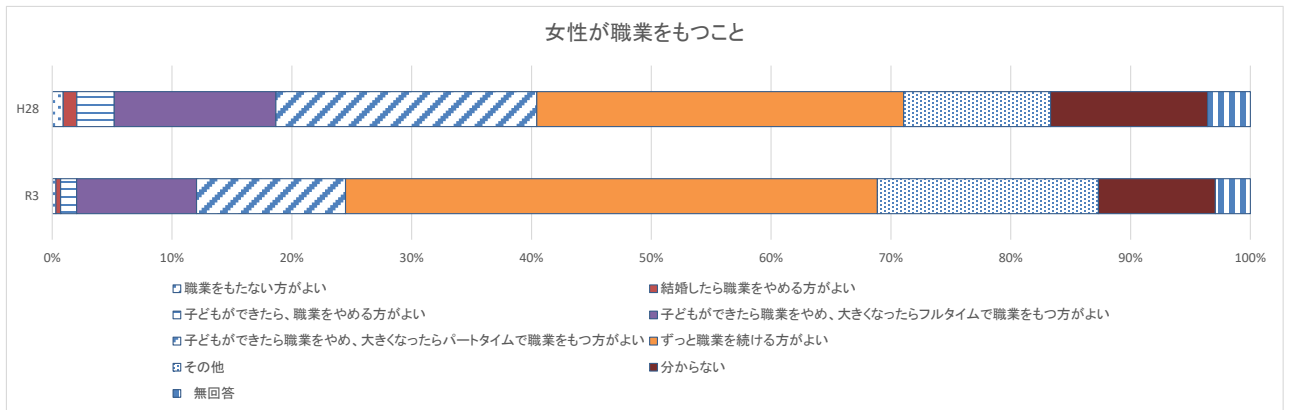
年代別内訳：18～19歳3件、20歳代61件、30歳代211件、40歳代330件、
50歳代343件、60歳代269件、70～74歳174件、75歳以上110件、
無回答76件（年代別グラフ作成にあたり、無回答は除いて作成）

有効回収率：52.6%

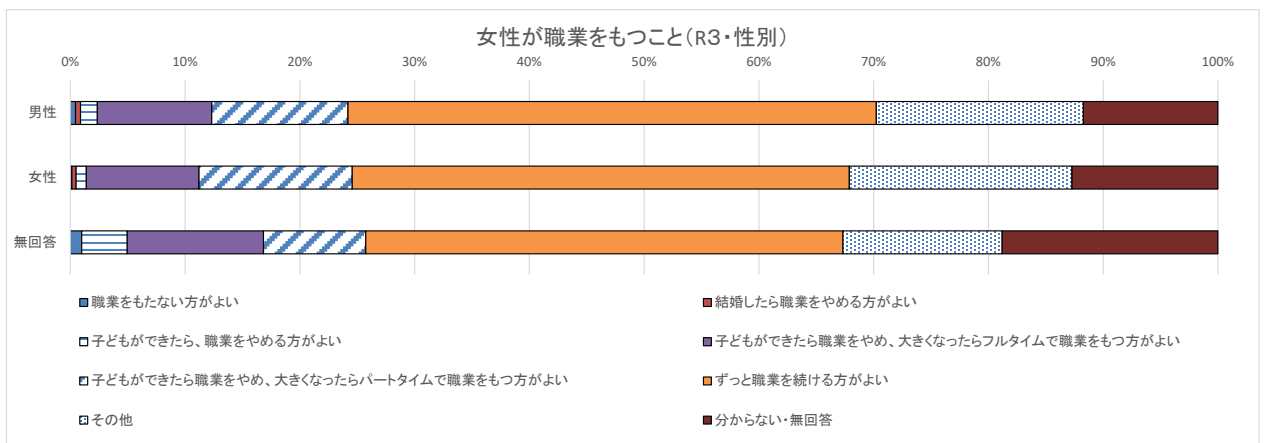
2 県民ニーズ調査の結果について

設問 28：女性が職業をもつことについて、どのように思いますか。（〇は1つ）

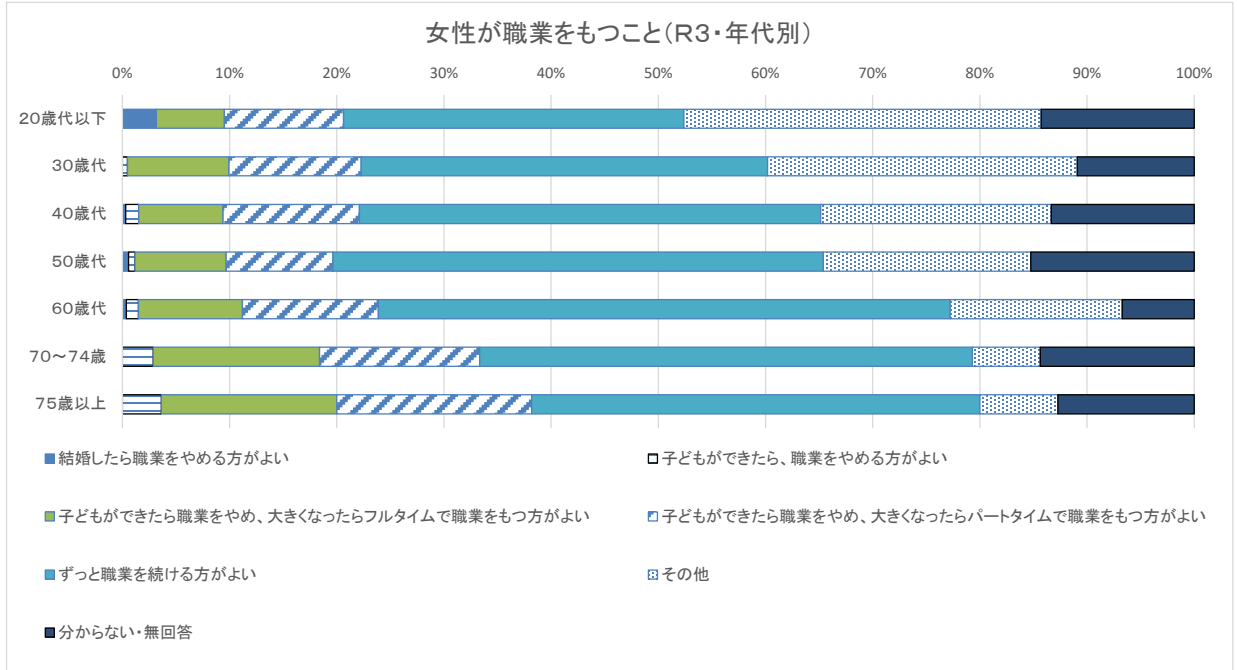
<H28 年度調査結果と令和3 年度調査結果との比較>



<令和3 年度調査結果の性別結果>



<令和3年度調査結果の年代別結果>



「女性が職業をもつこと」のまとめ

【平成28年度比】「ずっと職業を続ける方がよい」の回答割合が大きくなった。

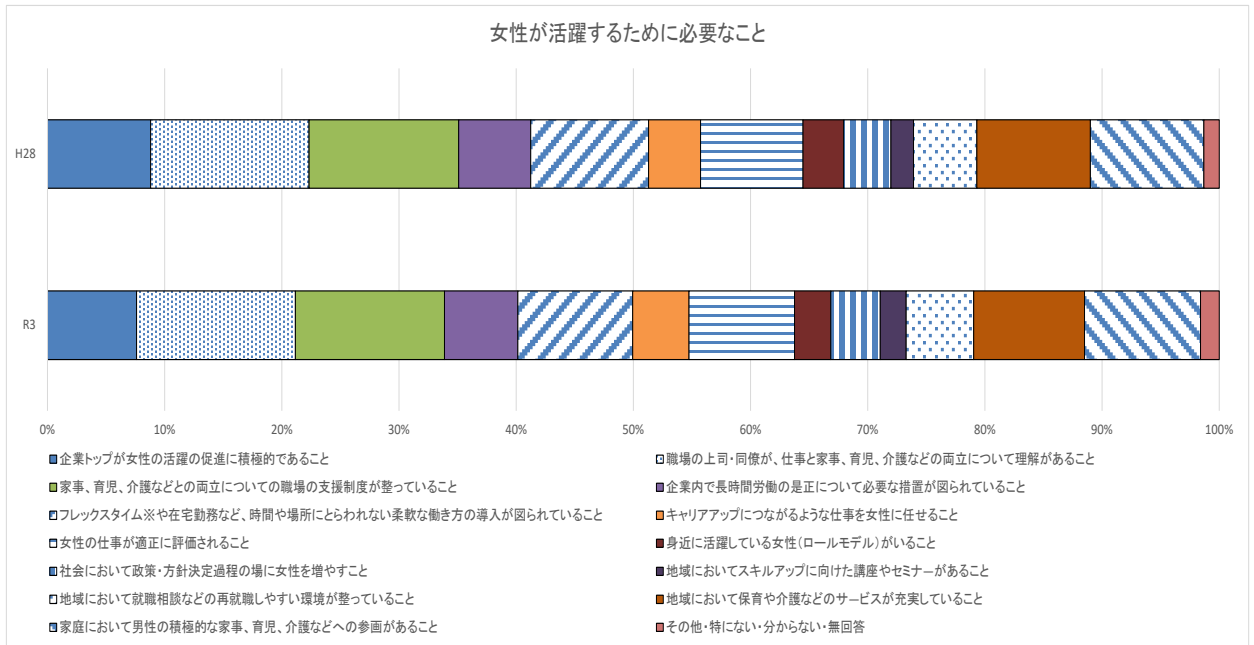
【性別】大きな違いは見られなかった。

【年代別】若年層の方が、「結婚したら職業をやめる方がよい」の回答割合が大きく、「ずっと職業を続ける方がよい」の回答割合が小さかった。

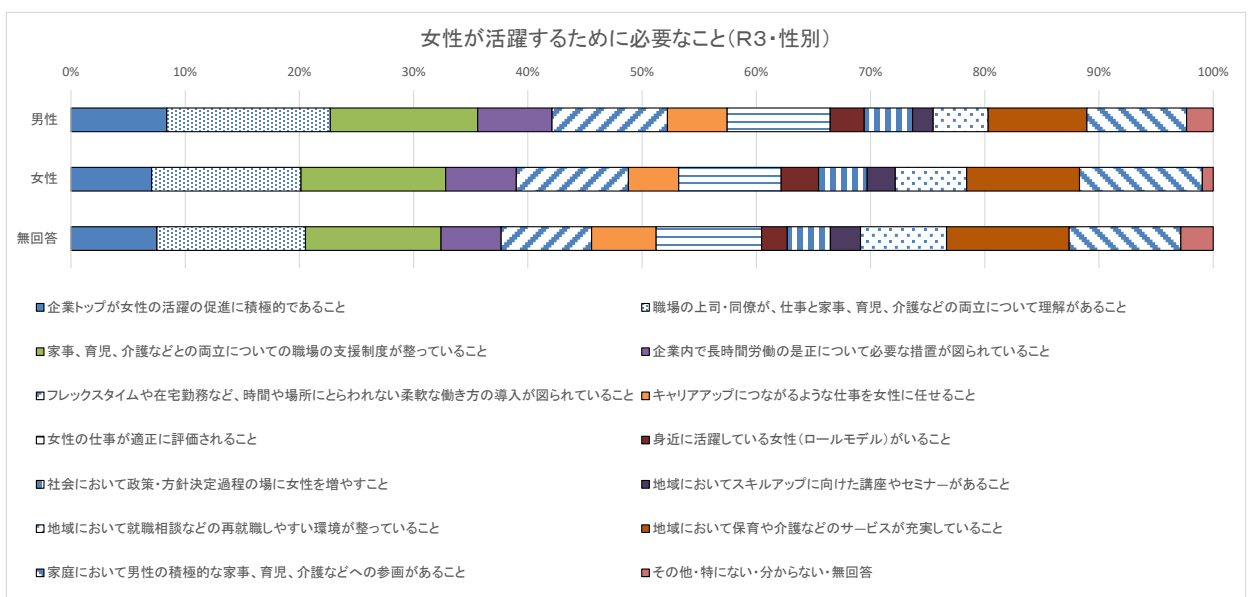
【その他】本設問は、他の設問に比べて「その他」の回答の割合が大きく、個人の自由、家庭の事情などの記述が約3分の2を占めた。

問 29 女性が活躍するためには、職場や社会、家庭などにおいて、どのような取組みや支援が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

<H28 年度調査結果と令和3年度調査結果との比較>



<令和3年度調査結果の性別結果>



男性

- 1位 職場の上司・同僚が、仕事と家事、育児、介護などの両立について理解があること
- 2位 家事、育児、介護などとの両立についての職場の支援制度が整っていること
- 3位 フレックスタイムや在宅勤務など、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の導入が図られていること
- 4位 女性の仕事が適正に評価されること
- 5位 家庭において男性の積極的な家事、育児、介護などへの参画があること
- 6位 地域において保育や介護などのサービスが充実していること

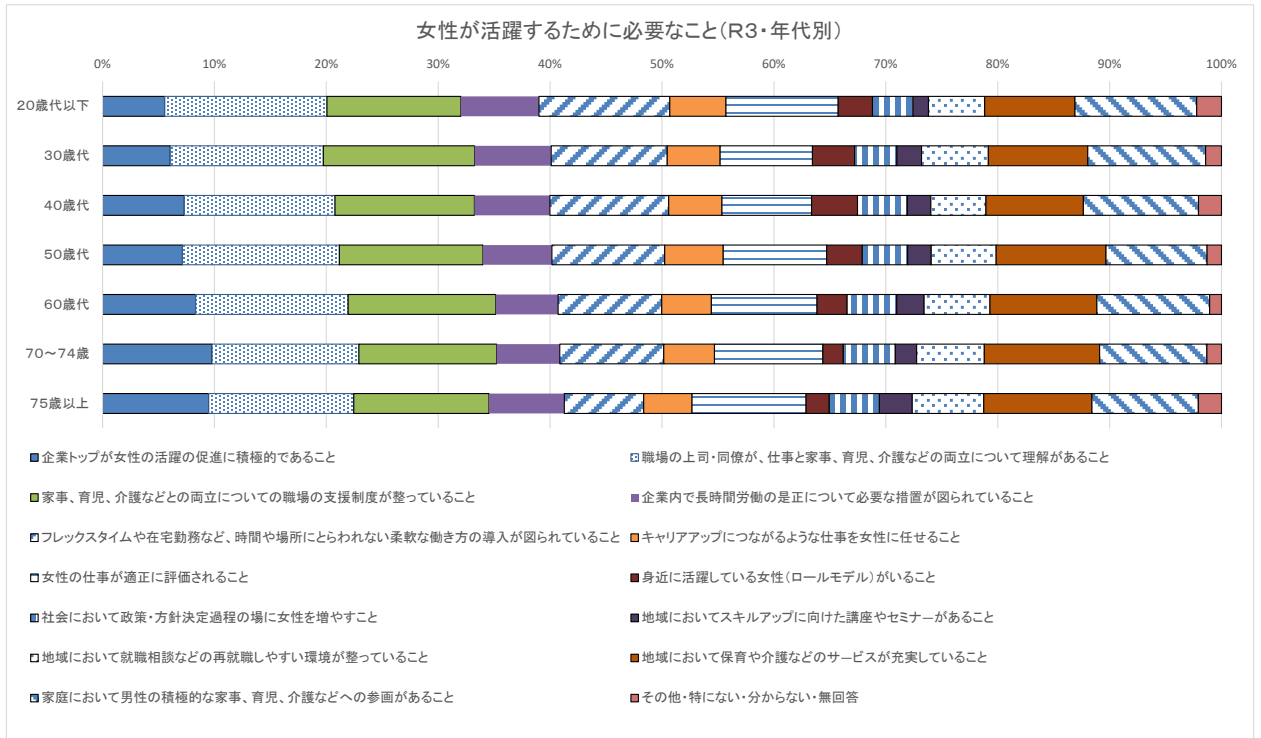
女性

- 1位 職場の上司・同僚が、仕事と家事、育児、介護などの両立について理解があること
- 2位 家事、育児、介護などとの両立についての職場の支援制度が整っていること
- 3位 家庭において男性の積極的な家事、育児、介護などへの参画があること
- 4位 地域において保育や介護などのサービスが充実していること
- 5位 フレックスタイムや在宅勤務など、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の導入が図られていること
- 6位 女性の仕事が適正に評価されること

無回答

- 1位 職場の上司・同僚が、仕事と家事、育児、介護などの両立について理解があること
- 2位 家事、育児、介護などとの両立についての職場の支援制度が整っていること
- 3位 地域において保育や介護などのサービスが充実していること
- 4位 家庭において男性の積極的な家事、育児、介護などへの参画があること
- 5位 女性の仕事が適正に評価されること
- 6位 フレックスタイムや在宅勤務など、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の導入が図られていること

<令和3年度調査結果の年代別結果>



「女性が活躍するため必要なこと」のまとめ

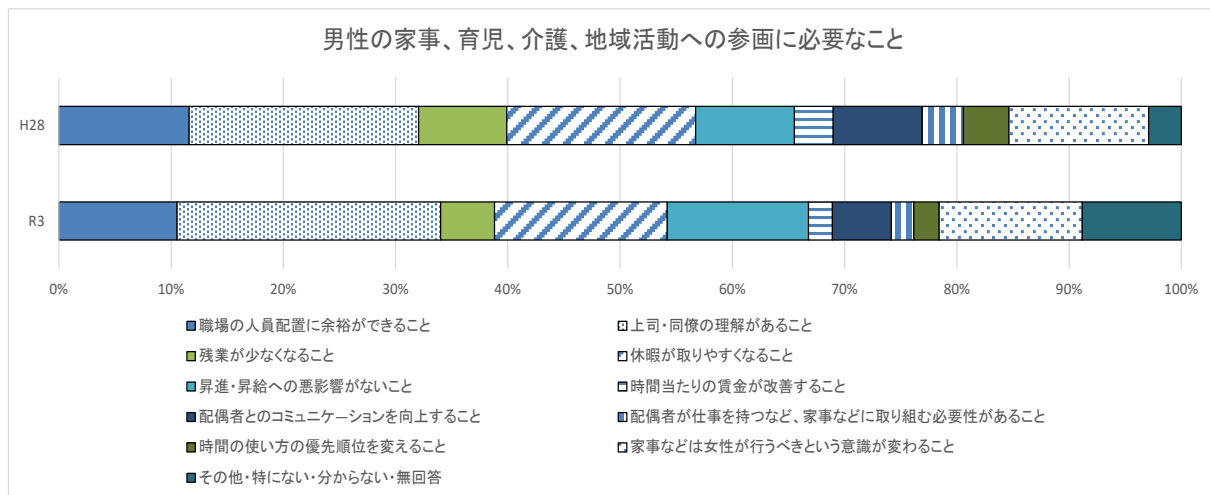
【平成28年度比】 大きな違いは見られなかった。

【性別】 3～6位では順位の上下はあるものの、上位6項目は同一であった。

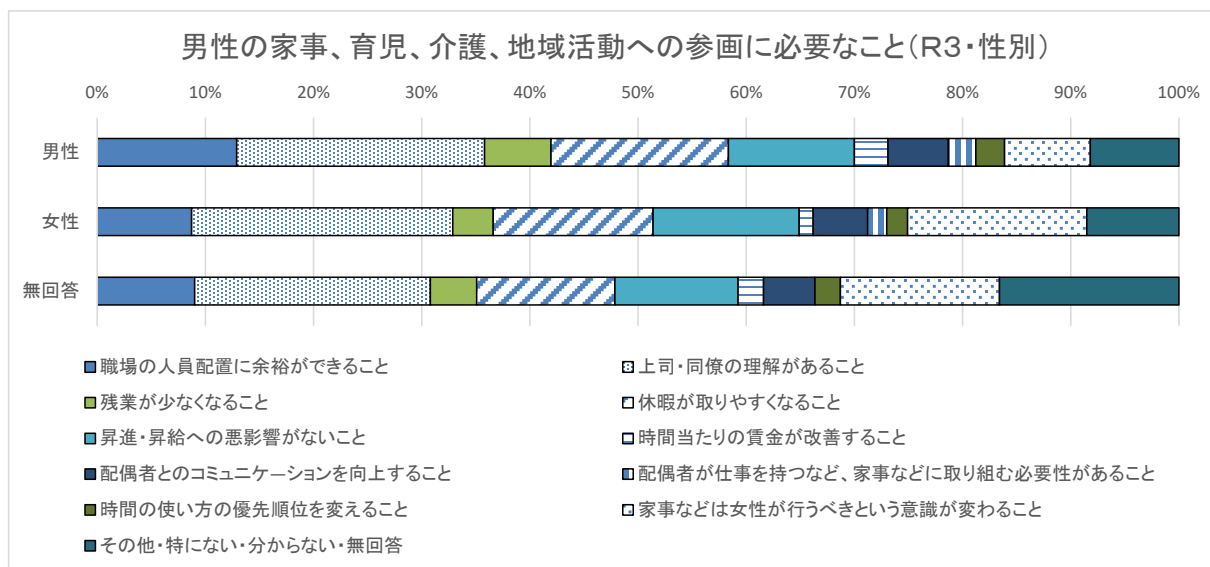
【年代別】 若年層の方が、「企業トップが女性の活躍の促進に積極的であること」の回答割合が小さかった。

問 30 男性が家事、育児、介護や地域活動にかかわるようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

<H28 年度調査結果と令和3年度調査結果との比較>



<令和3年度調査結果の性別結果>



男性

- 1位 上司・同僚の理解があること
- 2位 休暇が取りやすくなること
- 3位 職場の人員配置に余裕ができること
- 4位 昇進・昇給への悪影響がないこと
- 5位 家事などは女性が行うべきという意識が変わること

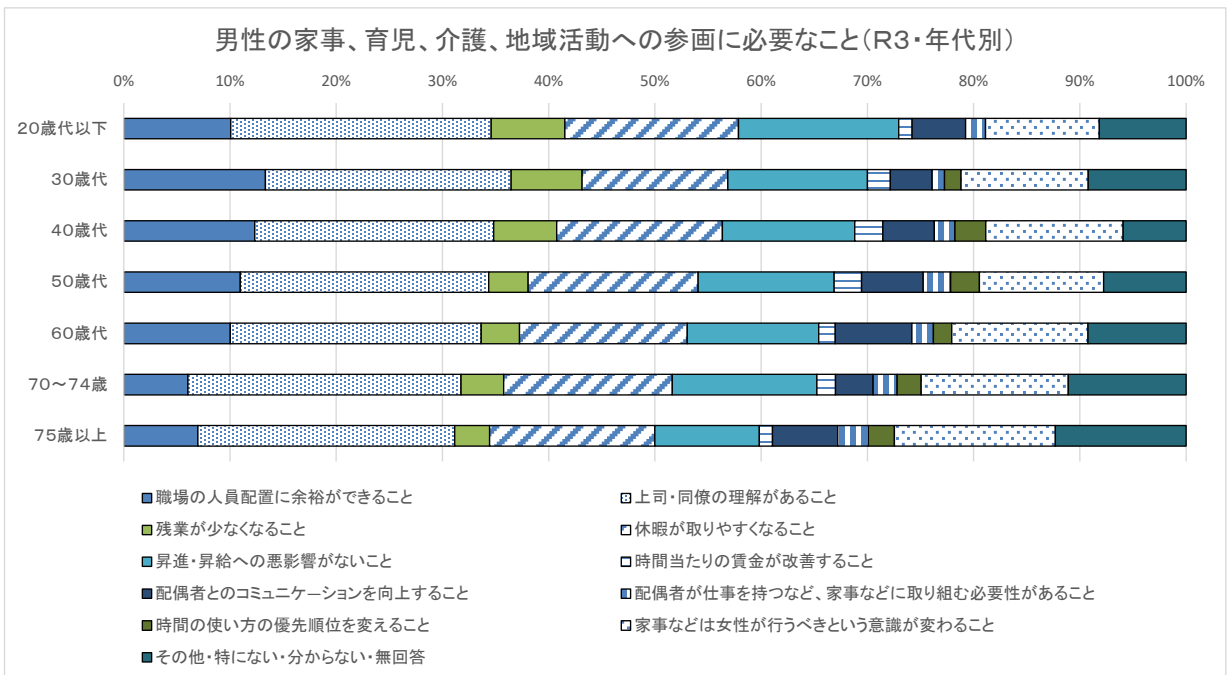
女性

- 1位 上司・同僚の理解があること
- 2位 家事などは女性が行うべきという意識が変わること
- 3位 休暇が取りやすくなること
- 4位 昇進・昇給への悪影響がないこと
- 5位 職場の人員配置に余裕ができること

無回答

- 1位 上司・同僚の理解があること
- 2位 家事などは女性が行うべきという意識が変わること
- 3位 休暇が取りやすくなること
- 4位 昇進・昇給への悪影響がないこと
- 5位 職場の人員配置に余裕ができること

<令和3年度調査結果の年代別結果>



「男性の家事、育児、介護、地域活動への参画に必要なこと」のまとめ

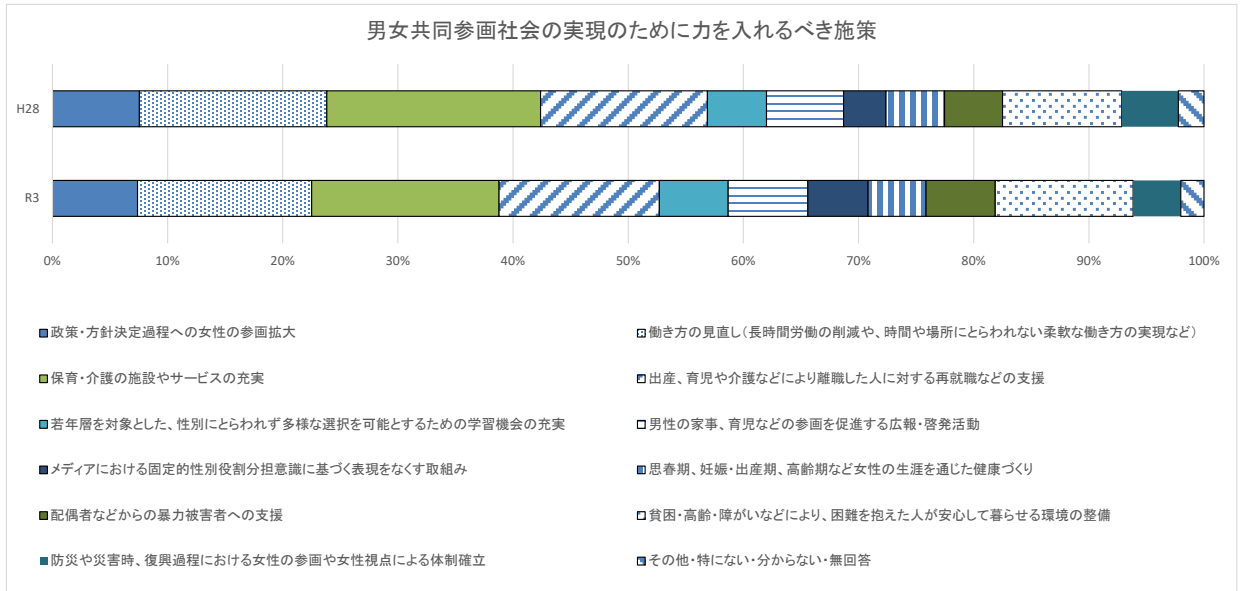
【平成 28 年度比】「昇進・昇給への悪影響がないこと」の回答割合が大きくなった。

【性別】 上位 5 項目は同一であったが、「家事などは女性が行うべきという意識が変わること」は、男性は 5 位であるのに対し、女性及び性別無回答では 2 位であった。

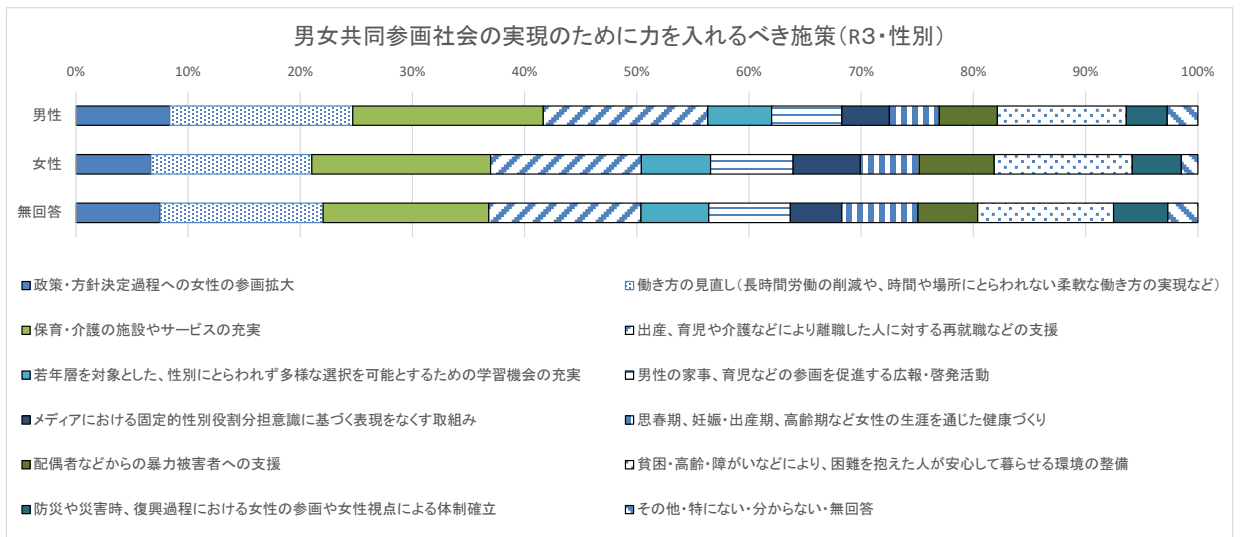
【年代別】 若年層の方が、「残業が少なくなること」の回答割合が大きかった。30 代、40 代では、「職場の人員配置に余裕ができること」の回答割合が大きかった。

問 31 女性も男性もそれぞれの個性と能力を發揮できる社会の実現を目指して、県では、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（〇はいくつでも）

<H28 年度調査結果と令和3年度調査結果との比較>



<令和3年度調査結果の性別結果>



男性

- 1位 保育・介護の施設やサービスの充実
- 2位 働き方の見直し（長時間労働の削減や、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の実現など）
- 3位 出産、育児や介護などにより離職した人に対する再就職などの支援
- 4位 貧困・高齢・障がいなどにより、困難を抱えた人が安心して暮らせる環境の整備
- 5位 政策・方針決定過程への女性の参画拡大
- 6位 男性の家事、育児などの参画を促進する広報・啓発活動

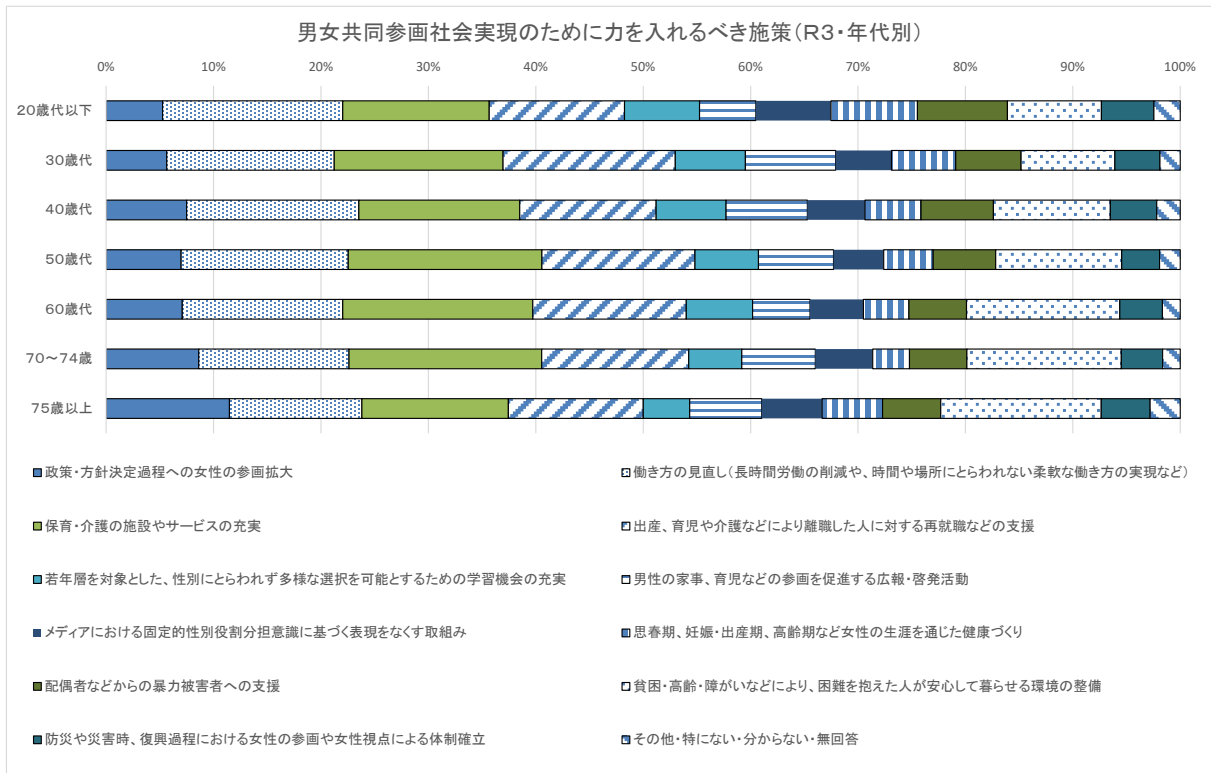
女性

- 1位 保育・介護の施設やサービスの充実
- 2位 働き方の見直し（長時間労働の削減や、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の実現など）
- 3位 出産、育児や介護などにより離職した人に対する再就職などの支援
- 4位 貧困・高齢・障がいなどにより、困難を抱えた人が安心して暮らせる環境の整備
- 5位 男性の家事、育児などの参画を促進する広報・啓発活動
- 6位 政策・方針決定過程への女性の参画拡大
- ” 配偶者などからの暴力被害者への支援

無回答

- 1位 保育・介護の施設やサービスの充実
- 2位 働き方の見直し（長時間労働の削減や、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の実現など）
- 3位 出産、育児や介護などにより離職した人に対する再就職などの支援
- 4位 貧困・高齢・障がいなどにより、困難を抱えた人が安心して暮らせる環境の整備
- 5位 政策・方針決定過程への女性の参画拡大
- 6位 男性の家事、育児などの参画を促進する広報・啓発活動

<令和3年度調査結果の年代別結果>



「男女共同参画社会実現のために力を入れるべき施策」のまとめ

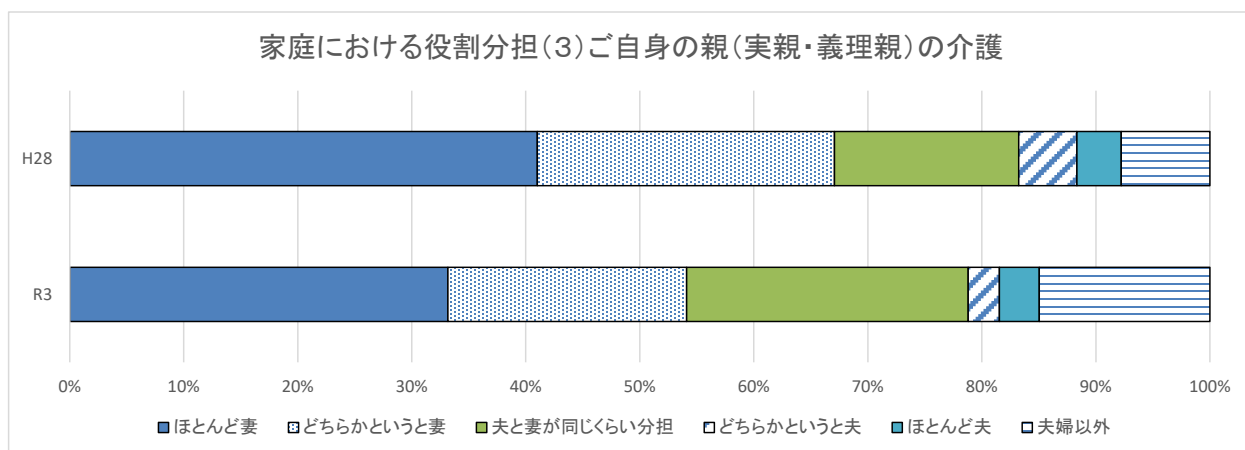
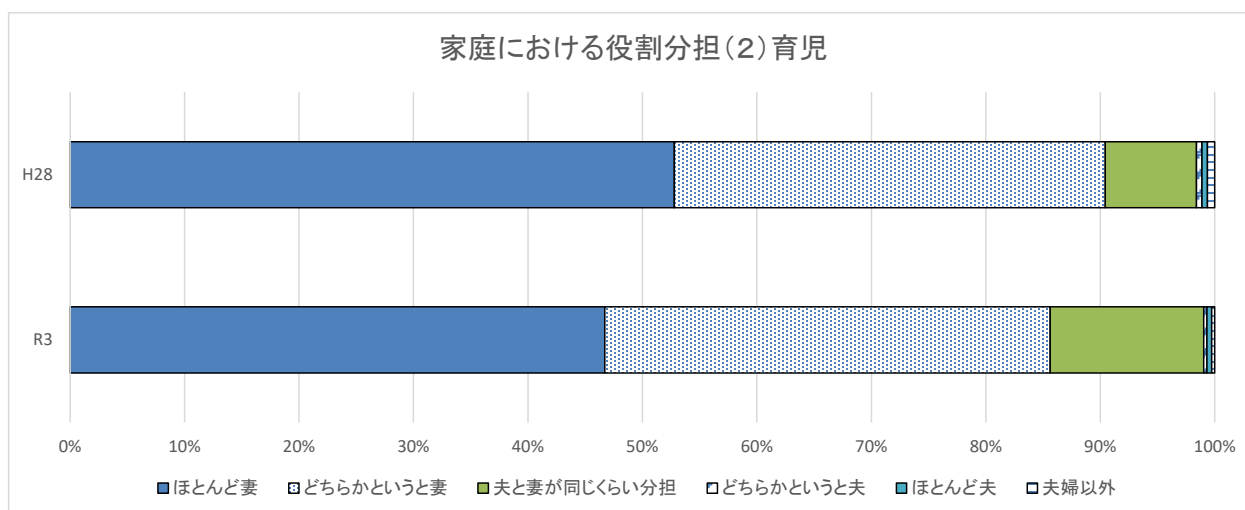
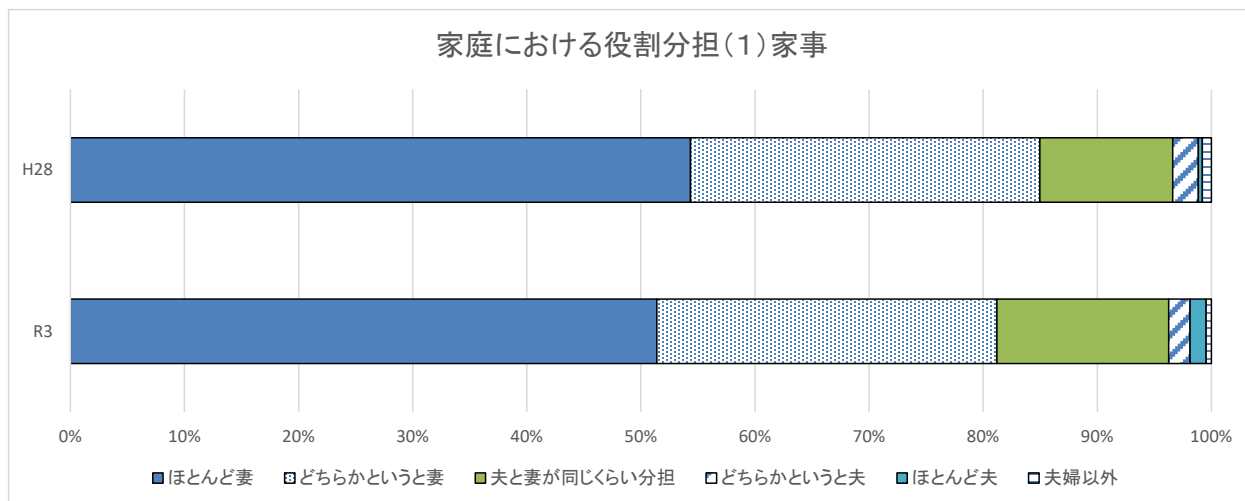
【平成28年度比】「保育・介護の施設やサービスの充実」の回答割合が小さくなり、「貧困・高齢・障がいなどにより、困難を抱えた人が安心して暮らせる環境の整備」の回答割合が大きくなった。

【性別】上位6項目は同一であり、かつ1～4位は順位も同一であった。

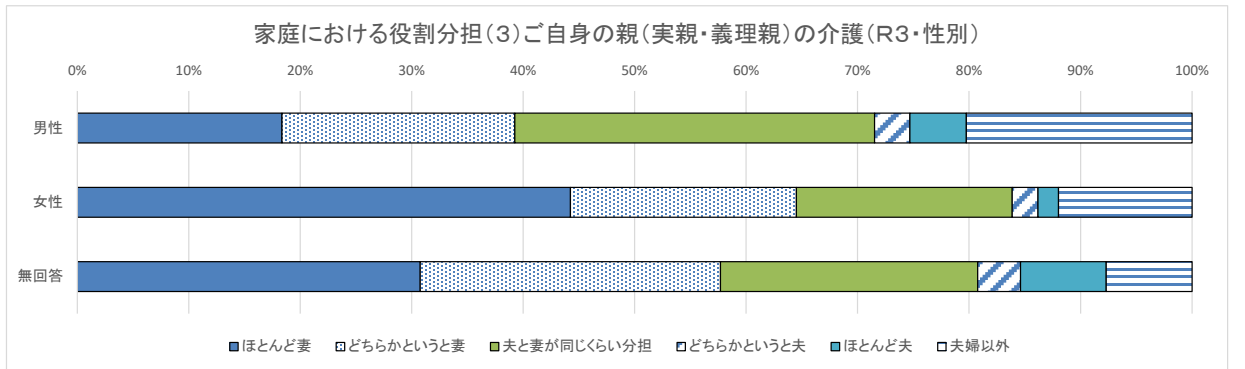
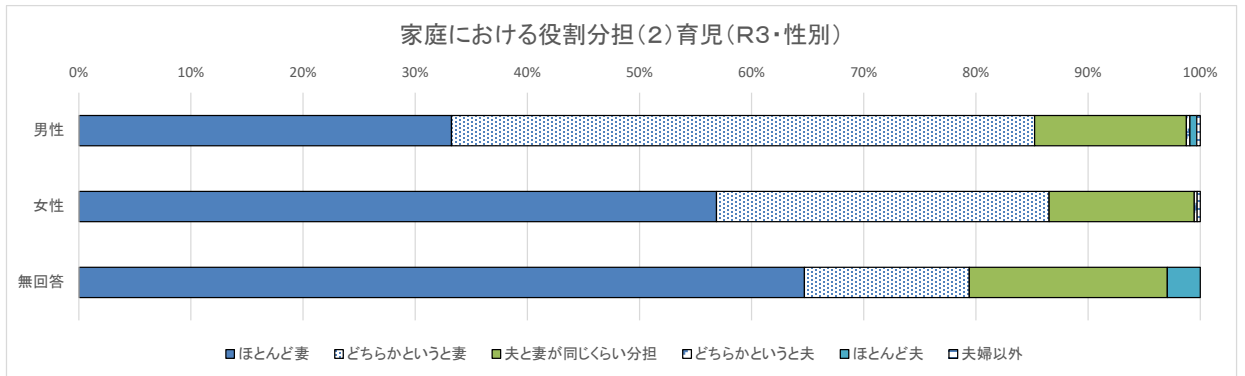
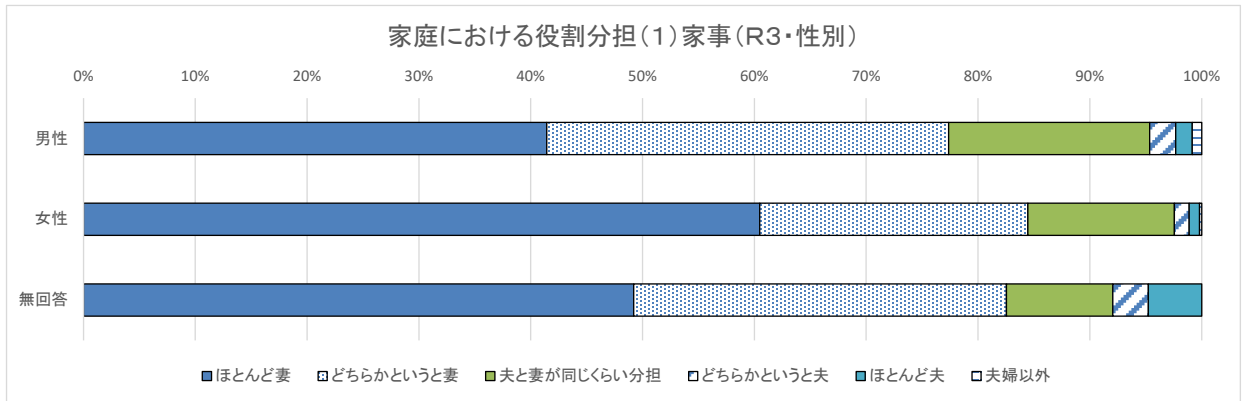
【年代別】若年層の方が、「政策・方針決定過程への女性の参画拡大」の回答割合が小さく、「働き方の見直し(長時間労働の削減や、時間や場所にとられない柔軟な働き方の実現など)」「メディアにおける固定的性別役割分担意識に基づく表現をなくす取組み」「思春期、妊娠・出産期、高齢期など女性の生涯を通じた健康づくり」の回答割合が大きかった。

問 32 家庭では、家事、育児、ご自身の親（実親・義理親）の介護を主にどなたがしていますか。（※行う必要がない、無回答を除いた集計結果）

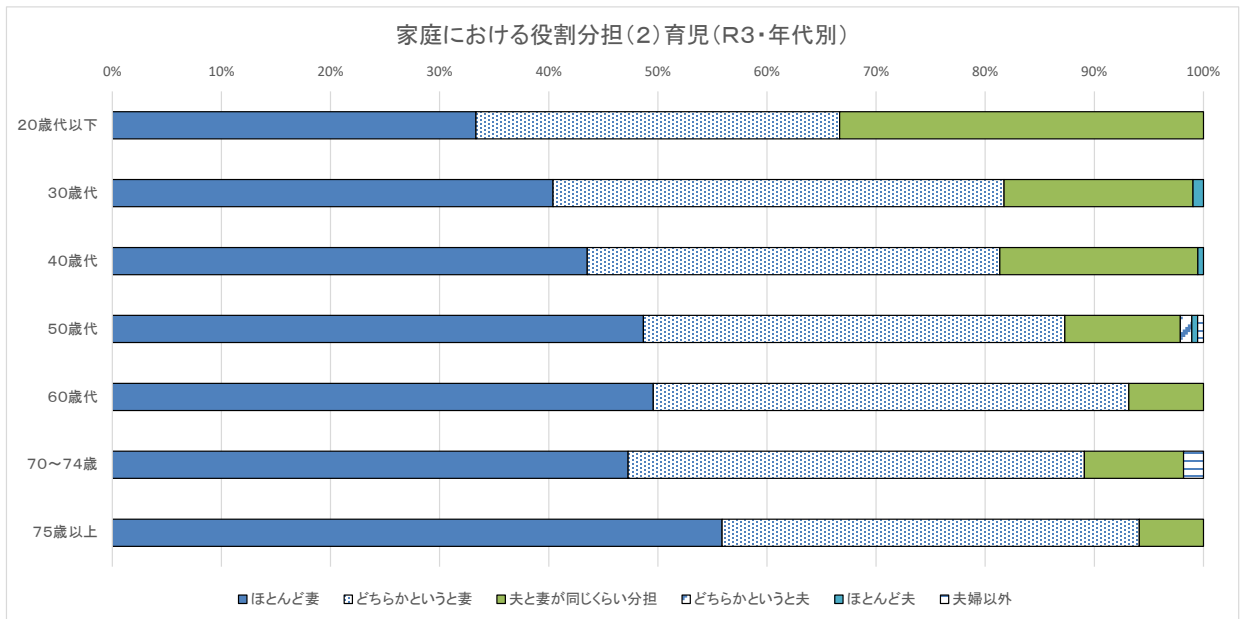
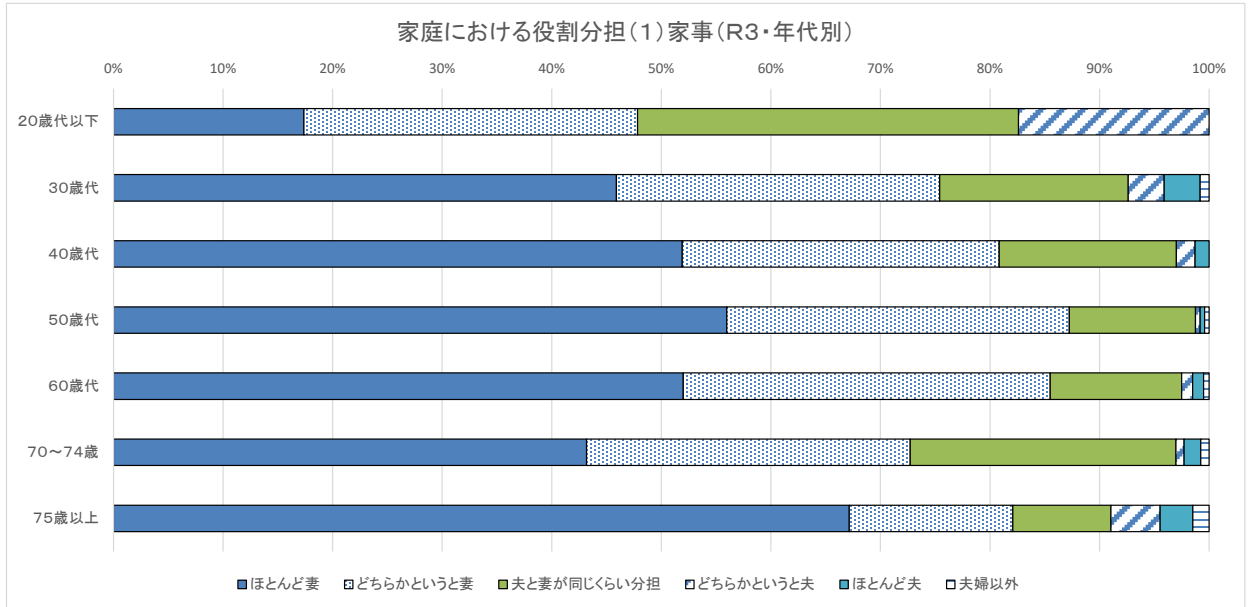
<H28 年度調査結果と令和 3 年度調査結果との比較>

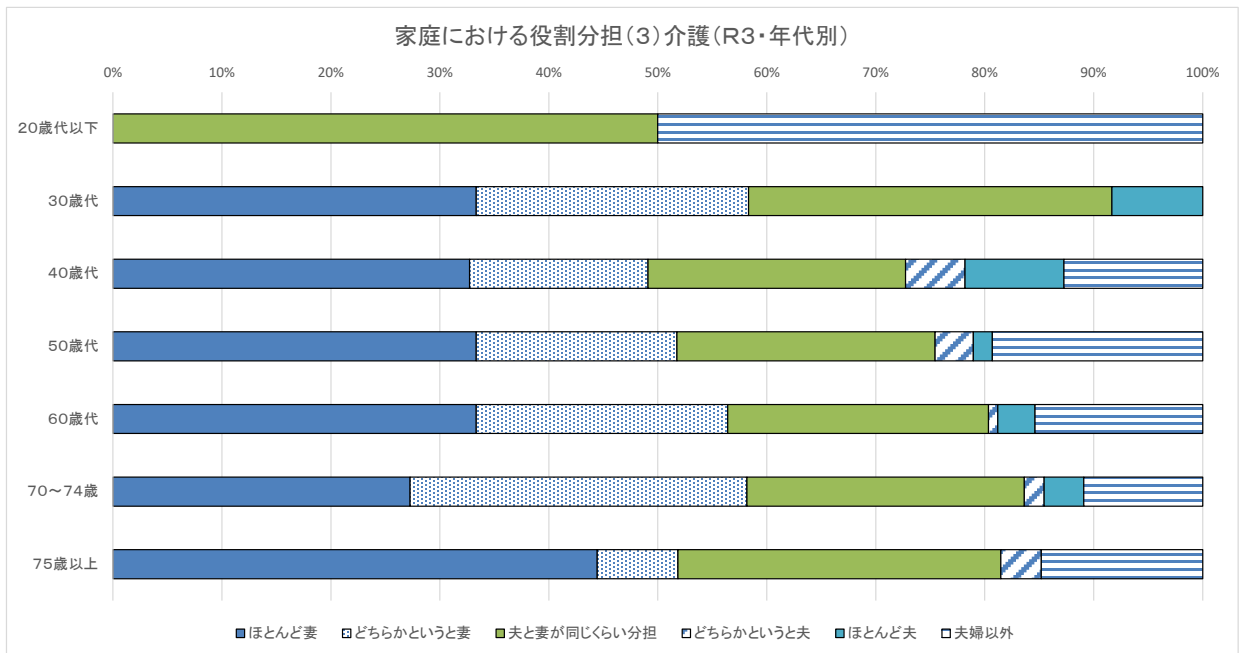


<令和3年度調査結果の性別結果>



<令和3年度調査結果の年代別結果>





「家庭における役割分担(1)家事(2)育児(3)ご自身の親(実親・義理親)の介護」のまとめ

【平成28年度比】(1)家事、(2)育児、(3)ご自身の親(実親・義理親)の介護のいずれも、「ほとんど妻」の回答割合が小さくなった。

【性別】(1)家事、(2)育児、(3)ご自身の親(実親・義理親)の介護のいずれも、「ほとんど妻」の回答割合に大きく差が生じた。

【年代別】若年層の方が、「夫と妻が同じくらい分担」とする回答が多かった。